

はじめての箏

～これから箏を始める方へ～

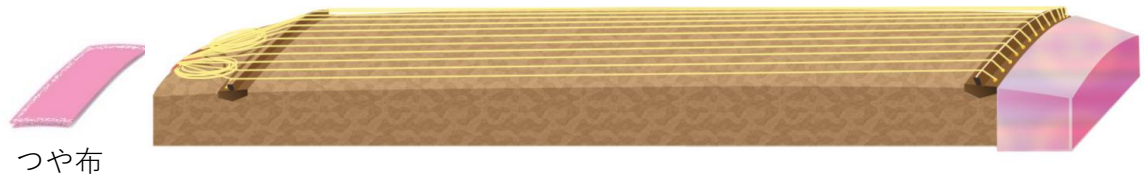
(お手入れ、保管、移動、メンテナンス)



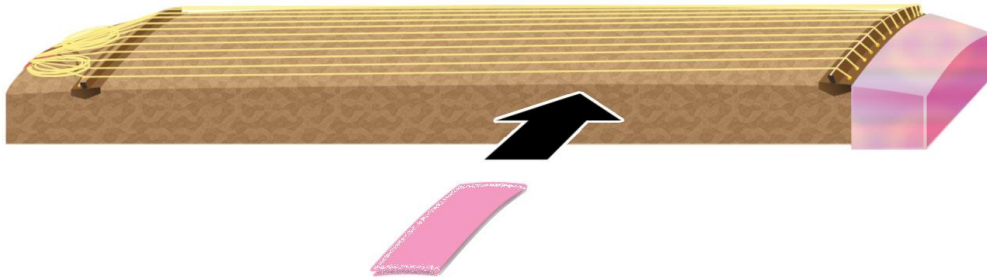
邦楽器専門 梅屋楽器店

お手入れしましょう

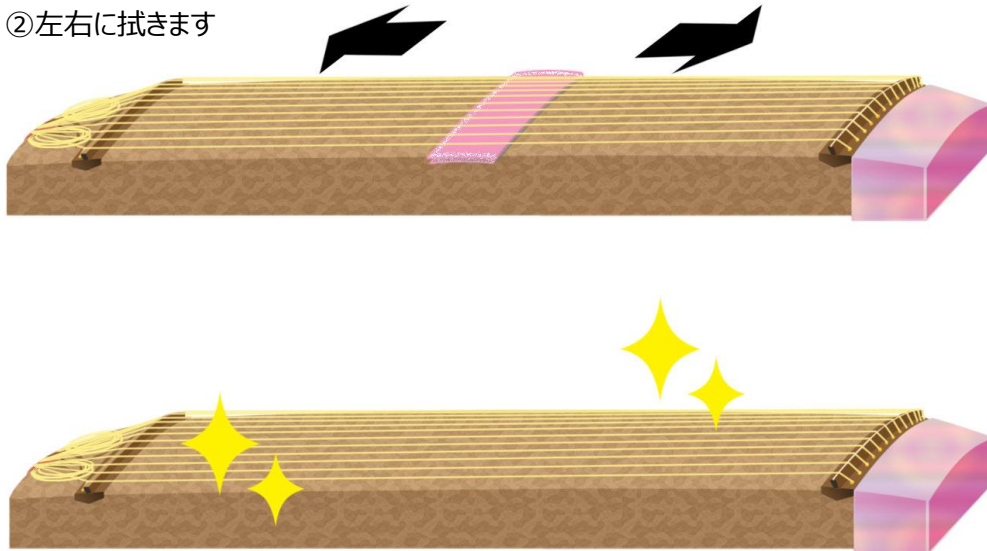
箏はから拭きが基本です。糸が結んでいるところは細かくてお掃除が難しいですが、雲角と龍角の間はまめにお掃除してください。



①布を通して ※ 角の近くは隙間がありますそこから通すと楽ですよ



②左右に拭きます

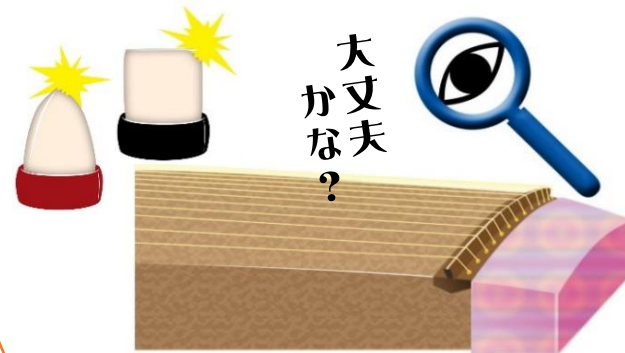


ワンポイントアドバイス

お手入れをした時、お爪が当たっている部分を見て触って傷んでないかチェックもできます。

まめにお手入れをすれば早めにメンテナンス時期も計画できます。

また琴爪の割れも点検しましょう。



保管について

箏も人と同じく快適な場所での保管が理想です。
立てて保管する時は以下の点に注意してください。

横(水平)にするのが一番！



①湿気

湿度の高い所は木がしけてしまいます。
保管場所として不適切ですので避けてください。屋外倉庫などには保管しないでください。



②温風

ファンヒーター等の温風が直接当たる所は避けてください。

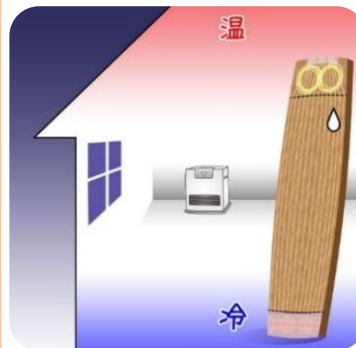


③温度差

冬季など屋内で暖房を使用すると、部屋の天井付近と床付近で温度差が発生します。

そういった場所で立たせた状態での保管は避けてください。

横に保管できない場合は空気を循環させるなど温度差への対策をしてください。



④炎天下の車内

炎天下での自動車内は極めて高温になります。

車内に放置された箏も高温になり木が汗をかくたり糸の劣化が進んだり大変！

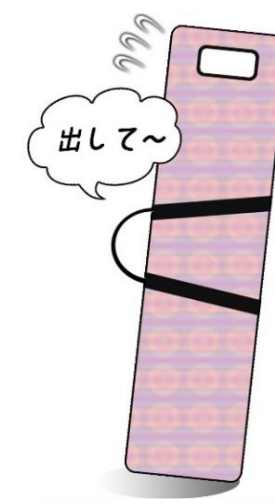
注意してください。



⑤長期ケース内保管

ケース内にずっと入れたままですと湿気がこもります。

長期保管時はケースより出し、布製のカバー等をかけて保管してください。

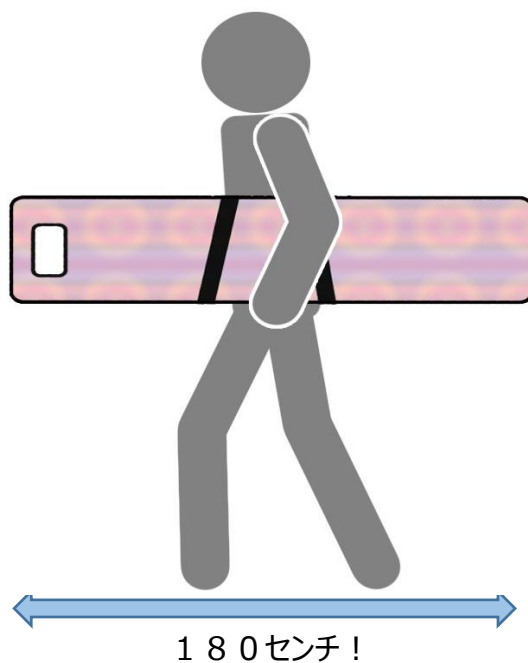


持ちはこび・移動

箏の移動、持ち運び時の注意点です。

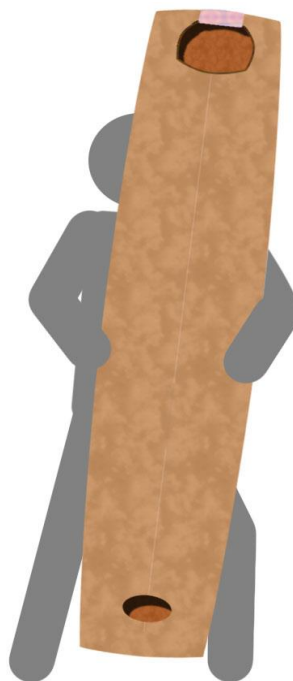
①広い所

横にかかえて歩くと楽ですが前後に注意しましょう。
※特に階段など注意が必要です。



②狭い所

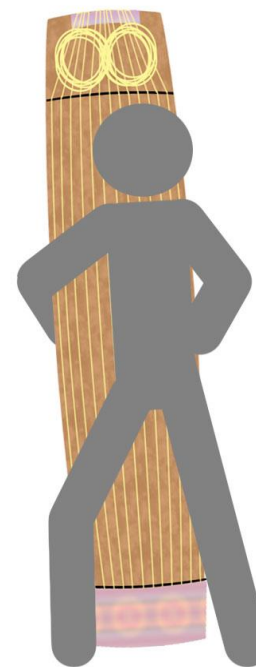
自分の前に立てて運びましょう。
※絃を張ってある方が手前（自分側）
裏板側は外です。



③柱を立てた時の運び方

狭い場所と同じく絃側を手前に立てて運びます。特に調絃（チューニング）後は絃に触れないように注意しましょう。

一・巾は外に出張っているので特に注意が必要です。

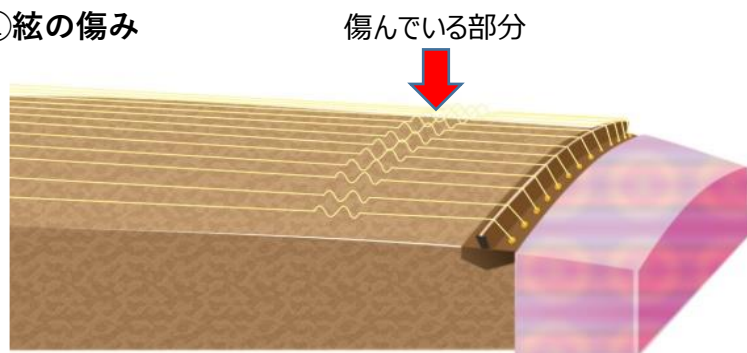


【糸のメンテナンスのご紹介】

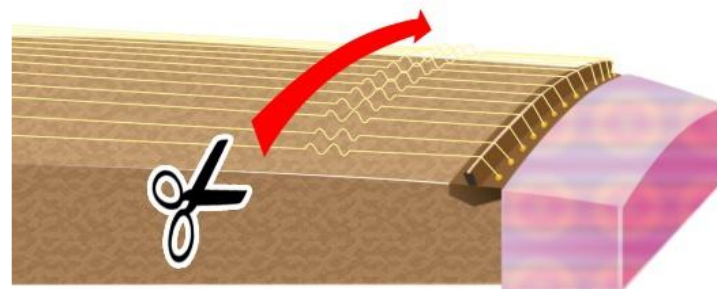
箏を弾くと少しずつお爪で弾いているところが傷んでいきます。そこで糸が切れる前に【糸締め】をしましょう。糸締めの方法は[新糸][天地][送り・切りつめ]の3種類があります。[新糸]とは新しい糸に交換することを言い、今回は[天地]と[送り・切りつめ]の説明をします。

糸締め【天地】※新糸から数えて2回目

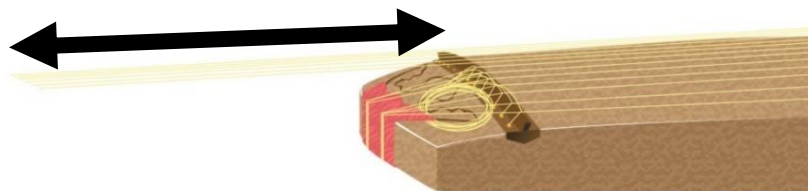
① 絃の傷み



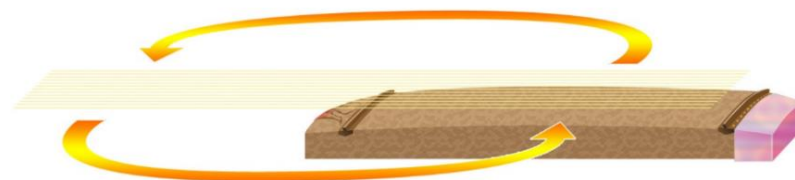
② 傷んでいるところをカット



③ 束ねている絃をほどく



④ 上下（天地）を替える



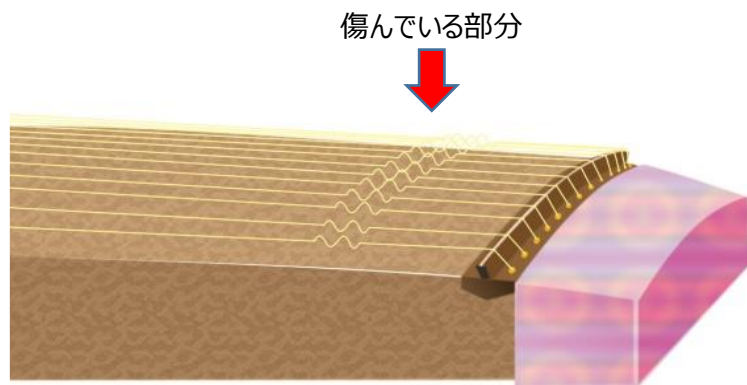
ワンポイントアドバイス

音は[新糸]が一番良い状態で次に[天地]そして[送り・切りつめ]の順番になります。

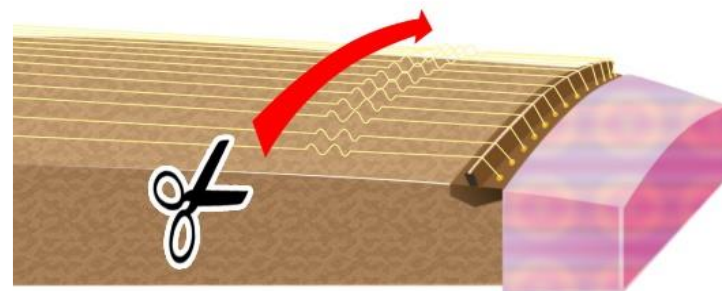
音を重視する場合は 天地のみで 送り・切りつめをしないこともあります。音・重視の方はオススメです♪

糸締め【送り・切り詰め】※新糸から数えて3回目

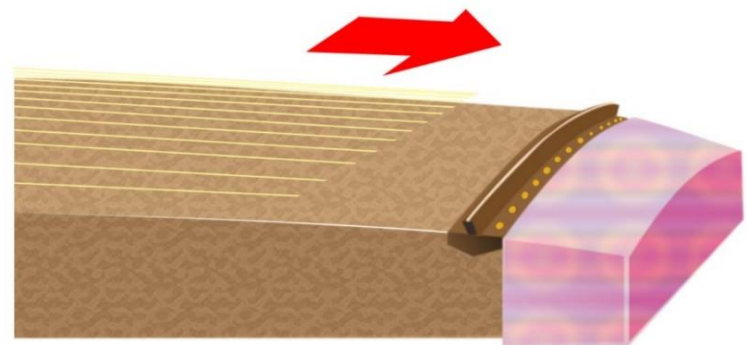
① 絃の傷み



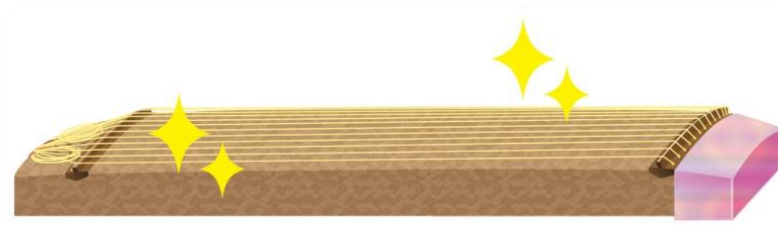
② 傷んでいるところをカット



③ 絃のスライド



④ 修繕完了



次回のメンテナンスは「新糸」に交換です。

Q & A お答えします！

Q: 箏の糸は長そうなのにどうして3回しか糸締めできないの？

A: 3回以上の糸締めは切れる可能性が高くなるためです

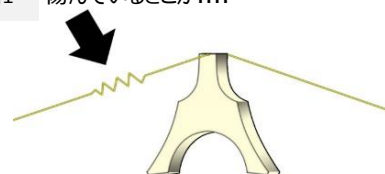
(解説)

実はお爪で弾くところ以外に、糸を結んでいたところにも強い力がかかっていたため弱くなっているんです。天地をすると傷んだところが写真1↑のところに来ます。切り送りをすると弱っているところがさらに柱がかかるところの近くなり(写真2)、柱の上にかかる図1のように切れる**可能性が高**くなります。そのため、ご自身でも「今は新糸から何回目の糸締めなのか」を覚えておくといいでしょう。

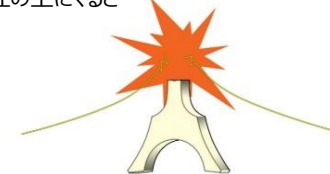


送り・切つめをするとさらに柱に近くなります

図1 傷んでいるところが....



柱の上になると



Q: 五年前の新糸 新糸なのにどうして交換なの？

A: 5年以上前の糸は劣化して弱くなっているためです

(解説)

琴糸は製造されてから日に日に劣化が進みます。例えば「新しい輪ゴム」と「古い輪ゴム」のような感じです。古い輪ゴムは引っ張るとすぐに切れたりしますよね。それと同じように劣化が進んだ糸は、締めたばかりでも早くお爪で傷んだり、さらに糸を締める時に切れたり、交換しなかった為にまた新糸を張り直すなど逆に費用がかかります。なるべく5年以内に「天地」「送り・切つめ」をして良い音で弾きましょう。

Q: 柱を立てたまま保管して大丈夫ですか？

A: 大丈夫ですが糸が伸びてしまうのでお勧めしません

(解説)

柱をかけることにより糸は少しずつ伸びていきます。糸は伸びきってしまうと音に余韻がなくなったり、弾いている時に柱が動きやすくなったりと、あまり良いことはありません。必ずではありませんが、柱を外せる時は外してあげましょう。

※糸締めが強くて伸ばしたいと思った時は、次回の糸締めの時に「今より少し弱く」と職人さんに伝えるといいですよ。

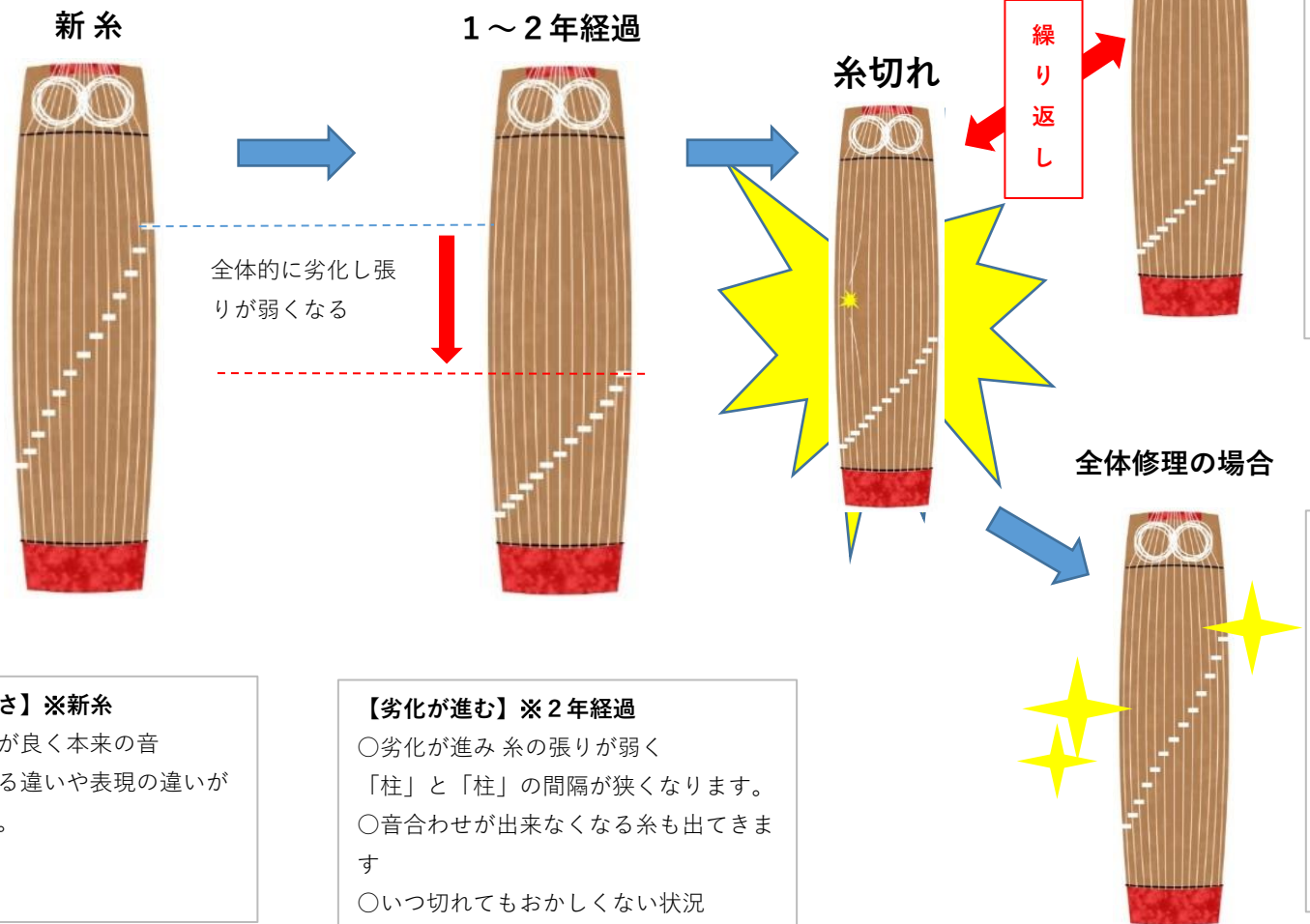
Q:切れた糸だけ直すことはできないの？

A：可能ですがお勧めしません。

(解説)

切れた糸だけを直すと、それぞれの糸の長さがバラバラになり、音と糸の強さのバランスが悪くなります。

【解説図】



【切れた糸のみ締め直す】

- 劣化し弱くなった糸に合わせて直さなければならない。
- 修理を繰り返しても本来の音色にはならない
- 使用頻度が高い糸から消耗する
- どれが切れてもおかしくない状況での使用

【全体を締め直す】

- 新糸の場合→
- 天地（上下をかえる）
- 天地の場合→
- 切り詰め（スライド）
- 適正になり音色が良い状態を体感できる。
- 1年～2年、安心して使用可能。

【適性の強さ】※新糸

- 最も音色が良く本来の音
- 奏法による違いや表現の違いがわかります。

【劣化が進む】※2年経過

- 劣化が進み 糸の張りが弱く
- 「柱」と「柱」の間隔が狭くなります。
- 音合わせが出来なくなる糸も出てきます
- いつ切れてもおかしくない状況

箏と琴の違い

“箏（そう・こと）は、日本の伝統楽器（和楽器）の一つ。

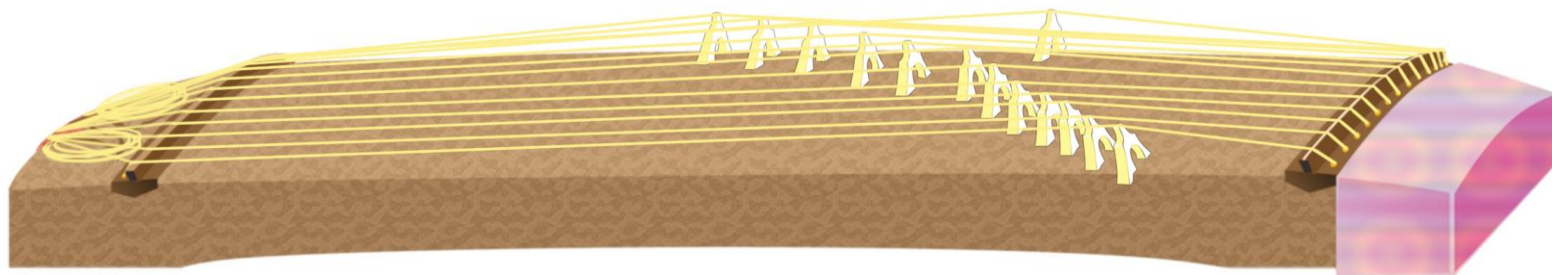
一般的に、「箏（こと）」と呼ばれ、「琴（きん）」の字を当てることもあるが、「箏」と「琴」は別の楽器である。

最大の違いは、箏は柱（じ）と呼ばれる可動式の支柱で弦の音程を調節するのに対し、琴は柱が無く、弦を押さえる場所で音程を決める。

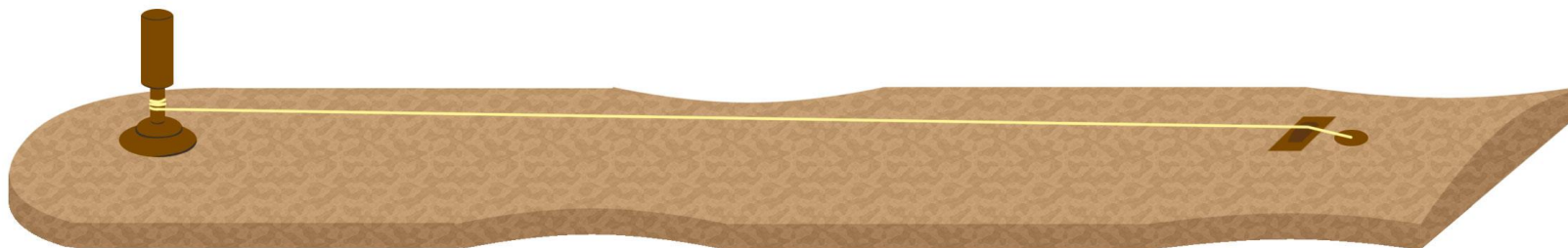
ただし、箏の柱（箏の駒）は「琴柱」とするのが一般的で（商品名も琴柱）、箏の台は琴台（きんだい）と必ず琴の字を使う。”

出典: フリー百科事典『ウィキペディア（Wikipedia）』 <https://ja.wikipedia.org/wiki/箏>

箏



琴
(一弦琴)



【ひと言】

「箏」と「琴」使い分けが難しいですね。正式には私どもが扱っているのは「箏」です。

しかし長年「琴」という字が使われてきたため、一般の方がイメージされる字は「琴」がやはり多いですね。

私たちが「箏を取り扱っております」とお伝えすると「箏？ あっ 琴のことね！」という現状です。

最近では少しずつ「箏」が認知されてきましたので、近い将来、正しく「箏」が使われると思います。